

研修トレーナーの1Patient体験記②

こんにちは。製薬企業向けのトレーニングを担当している、Nです。
「1Patient」を研修ツールとしてどのように有効活用するか、日々考えています。

製薬企業でのトレーニングを担当するには、どうしてもその素になる材料が必要ですよね。

これまでのトレーニングプランでは、MR認定の保持が目的になることも多く、自社MRの質を担保するということを軸に、さまざまな計画が立てられていたものです。また、自社で作成した資材をいかに顧客に伝わるようにディテールするか、そのポイントを社内各部門の担当者が説明してくれることもあるでしょう。

MR認定取得・保持に関し必須とされる時間は、MR認定センターが標準時間として設定しています。以前は、実施しなければならない必須時間が、導入教育及び継続教育で設定されていました。

標準時間とされたことで、製薬企業のトレーニング担当者にとっては、トレーニング内容をより自由度をもって設定できるようになったとともに、そのプランにおいては何をその材料にするか悩ましい毎日がつづきますよね。内容に新鮮味がなくマンネリ化すれば、研修対象者に飽きられてしまいますし、あまりに突飛な内容でもついてきてくれません。興味の喚起とは難しいものですね。

一般に研修の材料とされるMRの研修用テキストや各企業が関連する各疾病の治療ガイドラインなどには、標準的な疫学的情報、症状、検査値、合併症、治療そして予後などが記載されています。

もちろん非常に整理された情報であり、MRとしてはまずそれを学ぶことが大切です。一方で、あくまで一般的な知識であることも事実です。

1Patientでは、実際の電子カルテのデータが適宜更新されています。その生きたデータを直接ご覧いただける研修ツールです。この1Patientを閲覧できれば、トレーニング担当者の皆さまから症例を指定し、注目すべきポイントを案内して、社内のトレーニング受講対象者それぞれに検討してもらうような形もとれそうです。

例えば検査値の変化に着眼点をもって、その症例がどのような治療を行ったことで改善・増悪したか、影響したことは何か、など。一般的なことを知っているだけのMRから、各疾患に対して思慮深い、質の高いMRを育てるには、このようなきっかけ作りも必要かもしれません。

1Patientはそれを実現する『素』となるツールになりえると思います。

今回は、学習環境の変化と1Patientの活用について触れる予定です。

トレーナーNの略歴

『まもなく五十路を迎える男性トレーナー。製薬企業における人材育成・研修担当として20年以上、MRの育成にかかわる。MR・マネジャーの成長が何よりの喜び。』